

白井 文氏 講演会のご報告

株式会社 稲田会計事務所

平成 26 年 6 月 24 日



アベノミクス 3 本の矢“成長戦略”の中に、『女性が輝く日本』の実現があります。女性の社会進出における 2012 年度の日本総合ランキングは、世界 135 カ国中なんと 101 位です。これは先進国の中でも非常に低い水準であり、かなり遅れています。それでは、男女共同参画週間をご存知でしょうか？1999 年 6 月 23 日に制定

されてから 15 年経ちます。今まさに男女共同参画週間中です^^今年のキャッチフレーズは“**家事場のパパデカラ**”。

男女共同参画社会基本法とは、「社会において男女が互いに人権を尊重しつつ、能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現」のために作られた法律です。先日、東京都議会で妊娠・出産の高齢化に悩む女性などへの支援を訴えた女性議員が、女性蔑視のヤジを浴びせられた問題がありました。ヤジを発した議員は、“子育て支援の充実”“女性が働きやすい社会の実現”を政策として掲げていらっしゃるようですが、普段から心の中で思っている事が、このような発言を招くのだと思えてなりません。

前述の出来事は悲しい事実であります。男女共同参画社会基本法が一日でも早く日本中に浸透することを願います。そして女性が社会進出できるよう、パパも家事を手伝ってあげて下さい

創造経営研究会の講演会が平成 26 年 6 月 23 日(月)宍粟防災センターで開催されました。全国最年少女性尼崎市長の白井文氏に講演して頂きました。

尼崎市の財政再建や JR 福知山脱線事故等の様々な問題に、行政のトップとして真正面から取り組まれた講話を聞こうと、60 名近くの方が参加して下さいました。ここからは、事務所職員のセミナー受講の Report を紹介致します。

講演テーマ

“今、レジリエンスを考える”

白井 文氏

尼崎市長に就任当時、800 億円の財源不足があったそうです。その不足を解消するべく、300 項目の支出の見直しをされましたが、多くの反論がありました。それでもやらざるを得ないと必死で取り組み、血のにじむような努力をされて財政再建を成し遂げられました。財政再建を成し遂げるためには尼崎市職員の協力も不可欠です。実行された代表的な具体策をご紹介します。



“自ら動ける職員作り”です。

改善運動で職員の自発性を引き出す
毎年行う発表会で情報共有を行う
職員の行動をとにかく褒める
まず、尼崎市の組織をまとめるために奮闘されました。

就任から 2 年半後、忘れもしない JR 福知山脱線事故が起こりました。自然災害とは違い、誰も経験したことのない事故が起こり、対策本部で下した白井氏の指示とは...

誠実に対応する

会議より現場を最優先して物事を決定する
というものでした。尼崎市職員が普段の業務も遂行しながら、必死になって事故対応してくれたそうです。

8 年間に及ぶ行政のトップを経験された白井氏は様々な課題に直面する中で、答えを出すために多くの学びと勇気を得て、考え抜いてこられました。重要なことは“**レジリエンスを高める**”ことだそうです。レジリエンスとは心理学用語で『回復力』、『**困難を乗り越える力**』という意味だそうです。必要なことは次の 4 つを実行することだそうです。

様々なことを自分の頭で考える癖をつける

様々な価値観を受け入れる

責めるより褒める

コミュニケーション能力を高める

喋るより聞くこと、相手を認めること

白井氏の取り組みは、企業においてもとても大切なことだと思います。日々の積み重ねを大切に一步一步成長していきたいと思います。大変勉強になりました、ありがとうございます。

(記事担当:辻元)

白井氏のバイタリティ溢れる語りに多くの方が引き込まれました。このバイタリティの源は、ご自身の感受性からくる“怒り”だそうです。

講演最後には『組織のトップだからこそ経験できることがある。今後人生において、必ず役に立ちますから!』と、講演を聞きに来られた経営者の方々にエールを送られていました。いつでもアンテナを張り巡らせ、感受性高く生きていきたいものです。

今後も当事務所は、“経営者の方々に経営のヒントになることがあれば...”との想いで講演会を開催させて頂く予定です。ご期待下さい^^